

鷺浦の町並み

歴史的地区がひとつふたつしかない他の都市とは異なり、鷺浦の町全体が別の時代にタイムスリップしたかのような錯覚を訪れる者に抱かせる。町の家屋には伝統的な建築的装飾が施されており、通りの多くは車が通るには狭すぎ、1800 年代後半から 1900 年代初期の風景を今も留めている。

町の東端の丘から見ると、鷺浦の赤瓦の屋根は、外敵から守ってくれる丘と港の間にぎゅっと集中している。丘からの道を下ってそう遠くない場所に 1933 年に鷺浦を近隣の鵜峠地区へつなぐために建造された短いトンネルがある。トンネル入口の左側には石のモニュメントと、トンネル採掘中に発見された法華経が彫られた破片の入った小さな祠がある。

トンネルの入口近くにはかつて石見銀山を管理していた一族が所有していた塩田邸がある。この家の軒下の、頭頂部が赤い鶴の雅やかな彫刻は、家の使用人が大正時代（1912 年 - 1926 年）初期に制作したものである。丘を少し下ると江戸時代（1603 年 - 1867 年）の終わりからある商店が目に入る。その壁と最も外側の扉は厚く塗り重ねられた泥でできており、これには火事を防ぐ役割がある。

港に面したいくつかの家屋には竹板の壁があり、海から吹く冬の冷たい風から家の北面を保護し、断熱している。近くにある江戸時代（1603 年 - 1867 年）のしわく屋は、かつては裕福な塩の商人が所有していた倉庫だった。現在は公開されており、アートギャラリー兼カフェになっている。